

# かほだより

## ～節足動物による伝染病の媒介を防ぐために～ 吸血昆虫対策のポイント

牛伝染性リンパ腫やランピースキン病の原因となるウイルスは主に吸血昆虫（サシバエ等）によって媒介されます。吸血昆虫対策により、これらの病気のまん延防止だけでなく、ストレス軽減等、牛の損耗防止につながります。

### ① 発生源対策（卵～幼虫対策）

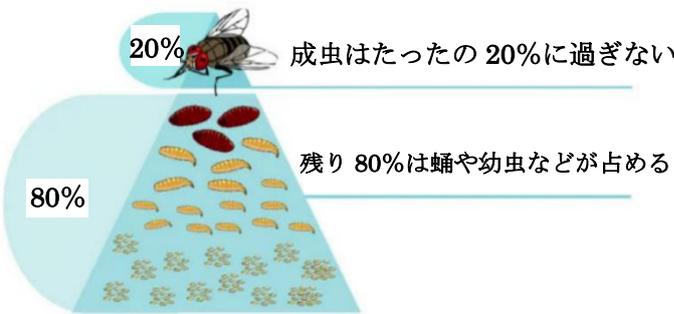
最重要！



目に見える成虫の4倍の卵～幼虫が潜伏

- ・昆虫発育抑制剤（IGR 剤）の定期的な散布（1～2週間間隔）
- ・畜舎の除糞・清掃
- ・堆肥は適切に切り返し、十分に発酵
- ・牛舎の隅等、牛が踏まない場所・除糞しにくい場所を重点的に対策

引用：畜産ナビ



### ② 成虫対策

#### 成虫駆除剤の散布

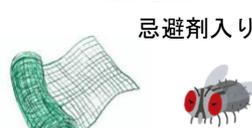


定期的な散布が効果的です！

#### 成虫の捕獲



#### 防虫ネットの設置



忌避剤入り  
牛舎内への侵入を阻止します！

#### 畜舎周囲の環境整備



除草等で成虫の休息場所を減らします！



国産の牛乳、お肉、卵を  
食べてまもう

畜産物を生産するためのコストが上昇しています。皆様に国産の畜産物を食べていただくことが生産者の応援に繋がります。



公益社団法人

中央畜産会

中央畜産会

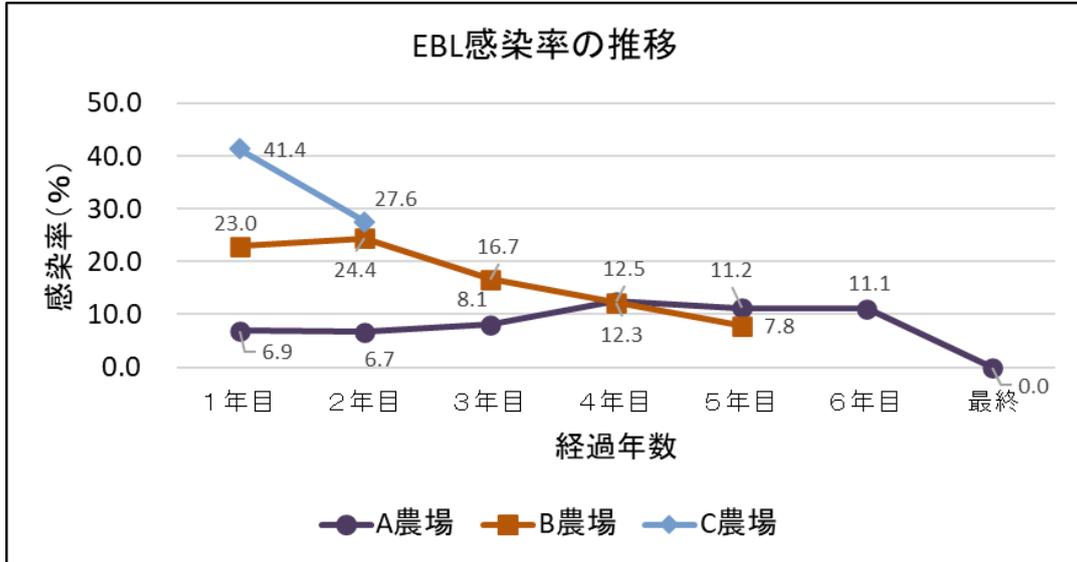
TEL.03-6206-0840

東京都千代田区外神田2-16-2  
第2ディーアイシービル9F

# 牛伝染性リンパ腫の対策事例

牛伝染性リンパ腫（EBL:旧牛白血病）はEBL ウイルスの感染により引き起こされる病気です。多くは長期間にわたり症状を示しませんが、発症した場合はリンパ節が腫大する等、様々な症状が現れ、経済的被害が生じるため、対策が必要になります。

今回は牛伝染性リンパ腫対策に積極的に取り組まれている農場の事例を紹介します。



## 全ての農場で取り組んだこと

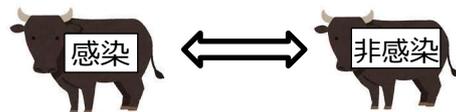
### 吸血昆虫対策

- 成虫駆除剤の散布
- サシバ工捕獲装置の設置
- 防虫ネットの設置
- 畜舎周囲の環境整備



### 出来る限りの分離飼育

同一舎内でも感染牛は端に配置

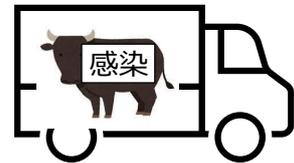


### 初乳対策

- 感染母牛の初乳は子牛に与えない。
- 冷凍初乳
- 初乳製剤
- 60℃30分加温した初乳を給与



### 感染牛の淘汰



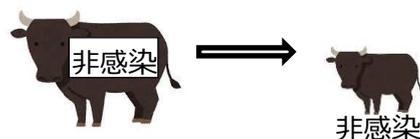
上記に加え、感染率が著しく減少しているC農場ではこんな取組も！

### やはり！吸血昆虫発生源対策の強化

- 堆肥の適切な管理
- こまめな糞の掻き出し



### 後継牛は非感染牛のみから生産



EBL 感染率が高い農場でも対策を実施すれば清浄化することが可能です。

検査や対策に興味のある方は防疫課までご相談ください。